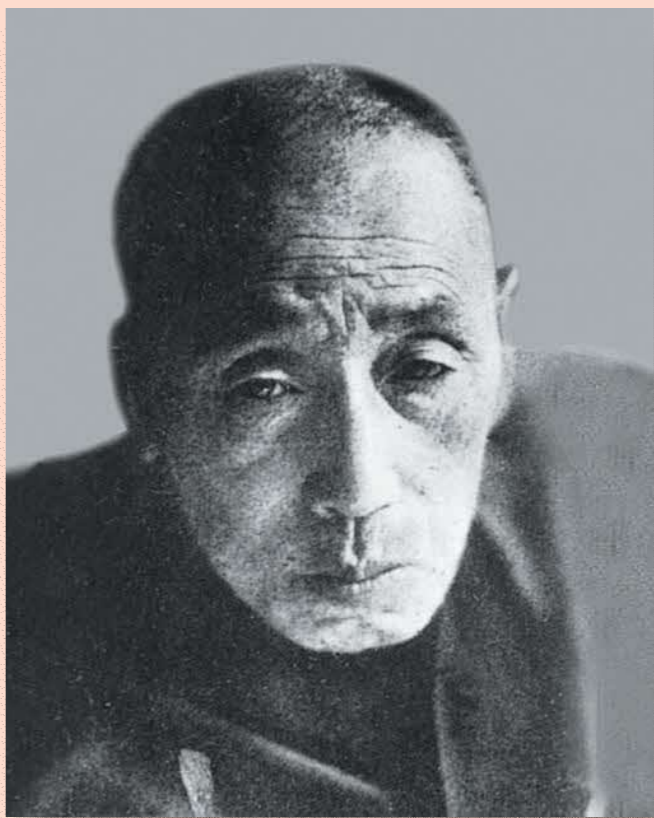


詩

こ  
だま  
か  
がい  
児玉花外



長門市  
(1874～1943)

本名、伝八。花外は“白雲なびく駿河台：”の明治大学校歌の作詞者として知られ、『社会主義詩集』が日本最初の文学作品の発禁で一躍有名になった。その彼が大正十三年の春、ひよつこり父祖の地長門を訪れたので、知る者は驚いた。彼は墳墓のある板持に近い湯本温泉秋山六角堂に逗留。ここから萩・山口・下関・岩国など各地を遊歴し、“防長は赤い瓦に白い葺：”等の即興詩を多く作り、『防長新聞』、『関門日日新聞』に発表した。  
(桑原伸一)

【主な著作】

『花外詩集』(金尾文淵堂、明治37年)

『東京印象記』(金尾文淵堂、明治44年)

『児玉花外詩集』(文松堂書店、昭和18年)